

★最新介護医療情報★

塩野義の国産ワクチン、国内で最終段階の治験開始… 3月末までの供給開始目指す (読売新聞社 2022.1.18 配信)

塩野義製薬は17日、開発中の新型コロナウイルスワクチンについて、国内で**最終段階の臨床試験(治験)**を始めたと発表した。国内で既に承認されているワクチンと比較し、有効性を確認する。海外でも最終段階の治験を進めており、国内外での治験結果を踏まえ、**3月末までの供給開始を目指す**。

国内での治験では、塩野義が開発中のワクチンと、既に承認済みのアストラゼネカ製ワクチンをそれぞれ500人に2回ずつ接種し、ウイルスの感染を防ぐ「中和抗体」の量を比較する。ベトナムなど海外での治験では、偽薬(プラセボ)と比べることで発症予防の効果を判定している。

iPS由来の細胞、脊髄損傷の患者に世界初の移植手術 …慶応大が実施 (読売新聞社 2022.1.14 配信)

慶応大は14日、人のiPS細胞(人工多能性幹細胞)から神経のもとになる細胞を作り、脊髄損傷の患者に移植する**第1例の臨床研究の手術を実施したと発表した**。慶大によると、脊髄損傷に対するiPS細胞由来の細胞の移植手術は世界初で、患者の手術後の経過は良好という。

臨床研究は、慶大の岡野栄之教授(生理学)、中村雅也教授(整形外科)らが計画した。**背骨の中を通る神経の束(脊髄)を損傷して重いまひなどが起きた18歳以上の患者が対象で、移植の効果が見込める受傷2～4週間後に実施するとしている**。

発表によると、手術は昨年12月、慶応大学病院(東京)で行われた。京都大側から提供された他人のiPS細胞から、神経のもとになる細胞を作製し、約200万個を患者の脊髄の損傷部位に移植した。

患者は手術の翌日からリハビリを始めた。手術から3週目に磁気共鳴画像装置(MRI)で撮影した検査では、明らかな異常は見つかっていないという。

患者は今後も運動機能の回復を促すリハビリなどを続け、**1年かけて移植の安全性や効果を検証する**。慶大は、患者の年齢や性別、現時点でのまひなどの回復具合については、公表していない。

